

京都・山科区●あきらめないがん治療

# 統合医療と腹腔内がん治療

医療法人社団 貴正会

## 村上内科医院 院長 村上正志 医学博士

高齢化社会になり、年々がんになる人が増えている。

これに対して、統合医療により副作用の少ないがん治療をめざしている医師が、今回がん末期でホスピスを勧められた人でも体に

負担の少ない腹腔内がん治療（胸腔内がん治療）を提案している。腹腔治療は少しずつ全国より治療と相談に応じている。

キーワードは、活性酸素、アンチオキシダント（抗酸化物）

がん性腹膜炎、腹腔内がん治療（胸腔内がん治療）である。



### ●PROFILE 村上正志（ムラカミ・マサシ）

京都府立医科大学卒業 ■  
元京都府立医科大学客員講師。  
統合医療、抗加齢医療、点滴療法、  
ハイパーサーミア（温熱治療）等、  
幅広い視点から、がん治療に取り組んでいる。

### がん治療で成功するには

がんになると一般的に外科手術  
抗がん剤治療、放射線治療の3大  
治療が基本です。

このがん治療をするにあたり、  
患者がすぐにすべき重要なことが  
2つあります。

まず、がんの重大な原因のひとつ  
の活性酸素を少しでも減らし、  
体を少しでもベストの状態にする  
ことです。抗酸化物（ビタミンC、  
E等）を摂取したり、点滴で投与  
したり色々な方法で抗酸化力を増  
強することです。

2つ目は、がんと戦う体内の免  
疫力を増やすことです。それには  
免疫力を増やす食事、栄養、温熱  
療法、自律神経療法、免疫療法等  
色々な免疫増強法があります。

以上の方法は統合医療的に誰で  
もすべき重要な事です。

### がん性腹膜炎で治療法がないと言われても

腹腔内の色々ながんの進行で、が  
ん性腹膜炎になります。腹水が増  
加してくると、急速に体力が低  
下し、寝たきりになります。さら  
に、腸閉塞、黄疸等がおこると、  
命も危険な状態になります。

腹水を取ってもすぐたまり、逆  
に体力を消耗するだけです。

そこで今回私がお勧めの腹腔内  
がん治療は、腹腔内に直接薬を注  
入することで、がんの増殖を強く  
おさえ、腹水がたまらなくなると  
全身状態が急速に良くなります。

それだけで十分な延命効果を期待  
できます。体力がけば今までの  
病院でまた抗がん剤治療や手術が  
可能になる事も期待できます。

腹腔内治療をするには、腹腔ポ  
ートを設置しなければいけません。  
この手技は全部保険適応です。

しかし、腹腔内治療で注入する  
薬剤等は保険外治療です。

薬は血管内点滴よりずっと少量で  
効果があり、副作用も少なく、90  
才の方でも治療しています。

抗がん剤に抵抗のある人、又は効  
果が無かった人は遺伝子治療とい  
う方法もあります。

本院は、大阪市東成区の朋愛病  
院の田中先生と近隣の病院の協力  
のもと、数年前より腹腔内がん治  
療を本格的に取り組んでおり、ほ  
とんどの方に効果をみています。



コロナ禍においても万全の診療体制を整えている

本院は末期のがん性腹膜炎の方  
の延命効果だけでなく、短期間で  
社会生活ができる様にスタッフ一  
同、日々努力をしています。

医療法人社団 貴正会

### 村上内科医院

<https://murakaminaika.com/>

※点滴療法（自由診療）は完全予約制となります。

所在地◆京都府京都市山科区四ノ宮垣ノ内町1

電話◆075-501-2551

治療についてのお問い合わせ

075-591-4722（本部）